



# お経のことば

如来の声を聞くと雖も、音声は如来に非ず。  
 声を離れて復、如来の等正覚を知らず。

雖聞如来聲 音聲非如来  
 離聲復不知 如来等正覚

華嚴経 夜摩天宮菩薩説偈品  
 智林菩薩の偈の一節 訳 鎌田茂雄

冒頭でもお伝えした通り、仏教青年会の研修旅行で東大寺に参拝させていただいた御縁に与り、今回は大仏様が造立される拠り所となった經典、華嚴経の一節をご紹介します。

華嚴とは、華で莊嚴（美しくかざられた）されたお経という意味で、つまりそれはこの世界、ひいては、廣大無辺な宇宙と一見対極に思える自己の内面とが、即ち一つであることを説いた深淵な哲学です。

とてつもなく膨大なお経ですので、最初から最後まで読誦されるということはまず無いそうですが、上で紹介している偈（規則的な定型詩）の一つ手前にある唯心偈と呼ばれるものは、東大寺で日常実際に読誦され、写経も盛んにされているそうです。

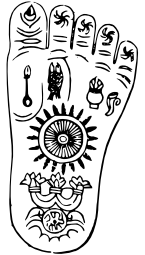
「仏様の声を聞いたと言っても、声そのものが仏様ではないのだよ。でもかと言って、その声を聞かないことには仏様の悟りもわからないよ。」、何だかもどかしさを感じる上の偈をさらに解り易く言うとそのようになりますが、この偈を読み解くには、かの著名な茂木健一郎博士も提唱するクオリアという概念を用いるのが良いか思われます。

クオリアとは要するに、言語化や数値化できない『感じ』のことであり、またそれは人間だけに備わる『靈性』のことであると指摘する学者もいます。そしてなにもアカデミックな話じゃなくても、例えば仲の良い夫婦や、阿吽の呼吸のビジネスパートナー、はたまたありふれた馴染の公園のいつものベンチで休憩する当人にしかわからない『その感じ』など、それらを第三者に説明しようにも説明しようがない、そういうもどかしさは誰もがごく自然に抱くものではないでしょうか。

この偈の中で説かれているのは実はそれと同じことで、大好きな歌手の歌声を聴いて感動するから、その歌声の入ったCDこそが当人の感動の本体かと言うと、もちろんそうではなくて、当たり前のことですが当人の心と歌声が相伴って、当人にしかわからない感動が生まれているのです。

逆に言うとレコードやらCDやらも、それがアナログであれデジタルであれ、情報化されたデータに過ぎないのですが、かといってそれが棄却されるべき虚しいものではなく、それは心に感動を興させる大事な媒介なのです。

如来の声を聞くものとその音声、それら二つが即ち一つになって如来の等正覚（悟り）が現れます。それを更に噛み砕いて言うと、悟りが実現された瞬間に声を聞くものとその声は悟りの中で一つになっているのです。いやもっと言うと、悟りに中や外があるわけもなく、その現象が悟りそのものなのです。たとえ一瞬でも我々が優しい気持ちになる時、そこにもはや我々は居らず、ただ優しさだけがあるのです。



## お知らせ

### ● 3月21日（水）祝日 第3回献茶彼岸会

皆様にとって縁の深い故人様に、自らたてたお抹茶を献じるお彼岸の供養会です。今回は新たな趣向を凝らします。

詳細は追ってお知らせ致しますのでお楽しみに。(^^)/

### ● 毎月28日 柱源護摩供

柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回、参加費等無料です。

※葬儀が重なると変更される場合があります。

本山修験宗 大瀧山 護国寺  
 781-2155  
 高知県高岡郡日高村九頭291  
 ☎ 0889-24-7244  
 ホームページ [gokokuji.site](http://gokokuji.site)  
 仏事に関してのお悩み、ご質問、  
 行事に関するお問い合わせ等、  
 お気軽にお電話ください。

